

8月18日（火） 三澤看護部長による「チーム医療と相互理解」をテーマとした総合講義を実施しました。本講義では、医療現場における「チーム医療」と「多職種連携（IPW）」の概念やその違い、社会的背景、目的、推進に必要な視点について解説があり、患者中心の医療を実現するためには、多職種間の相互理解とコミュニケーションが重要であることを強調されました。

また、TeamSTEPPS の枠組み（リーダーシップ、状況モニタリング、相互支援、コミュニケーション）について説明があり、併せて SBAR、コールアウト、チェックバック、2 チャレンジルールルールなどの具体的ツールを紹介し、心理的安全性を土台に責任の所在を明確化する実践的方法が示されました。

実践演習では、演習1として、4人1組で2分間の制限時間内に自由な条件で「**チームの輪**」を作成しました。振り返りでは、手戻りや接着不良などの課題が確認されました。続く演習2では、「片手のみ使用可」という制約の下、事前の作戦立案と役割分担を行ったうえで同様の作業に取り組みました。その結果、制約がある状況においても、適切なコミュニケーションと役割の最適化により、生産性と品質の向上が見られました。

演習を通じて、制約が大きい状況ほど、リーダーシップ、役割の明確化、状況モニタリング、コミュニケーションの重要性が高まり、これらの要素が短時間での成果向上に直結することを学びました。



患者の身体面だけでなく、心理面や社会面も含めて支援するためには、多職種による視点の共有が欠かせないと学び、相互理解を深めるためには、日頃から積極的にコミュニケーションを図り、必要な情報を適切に共有することが重要であると認識した。



TeamSTEPPS の4要素に基づく院内ミニ研修（**チームの輪**）を企画し、リーダーシップと役割分担を体験学習